

事業群評価調書(令和5年度実施)

基本戦略名	2-3 環境変化に対応し、一次産業を活性化する	事業群主管所属・課(室)長名	農林部 林政課	永田 明広
施策名	1 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化	事業群関係課(室)		
事業群名	① 生産性の高い農林業産地の育成-3	令和4年度事業費(千円)	※下記「2. 令和4年度取組実績」の事業費(R4実績)の合計額	253,405

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)		(取組項目)							
米、園芸、畜産、木材など地域・品目ごとに所得向上を図る「産地計画」を基軸とし、スマート農林業の展開などにより、経営規模の拡大、単収・単価の向上、コスト低減などに取り組み、生産性の高い農林業産地の育成を図ります。		i) 県産木材・特用林産物の生産拡大 ii) 産地の維持拡大に向けた革新的技術の開発							
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	<b>(進捗状況の分析)</b> 本県の素材生産は、搬出間伐を中心とする森林整備事業により実施しており、R4年度の搬出間伐面積は前年度比117ha増(110%)となったものの、間伐の繰り返し実施により森林内の立木本数は減ってきており、単位面積当たりの伐採(搬出)材積が減少してきている状況にある。このため、基準年(H30)の144,086㎡からR4年度は164,173㎡に増加しているものの、R4年度目標は未達成となった。 令和7年度生産目標数量である200,000㎡の達成に向けては、森林施業の集約化、路網整備や高性能林業機械の導入を進め、林業事業体の生産性を高めることで木材生産量の拡大に取り組む。
	産地計画策定産地の販売額(米・園芸・肉用牛・養豚)	目標値①	1,075億円	1,085億円	1,093億円	1,103億円	1,114億円	1,114億円(R7)	
	実績値②	1,021億円(H29)	1,012億円	算定中				進捗状況	
	達成率②/①		94%	—					遅れ
その他関連指標	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	
	素材生産量	目標値①	168,000㎡	176,000㎡	184,000㎡	192,000㎡	200,000㎡	200,000㎡(R7)	
	実績値②	144,086㎡(H30)	170,023㎡	164,173㎡				進捗状況	
	達成率②/①		101%	93%					やや遅れ

2. 令和4年度取組実績(令和5年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費(単位:千円)			事業概要  (令和4年度事業の実施状況 (令和5年度新規・補正事業は事業内容))	主な指標	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和4年度事業の成果等
				R3実績	うち一般財源	人件費(参考)			R3目標	R3実績	達成率	
				R4実績					R4目標	R4実績		
				R5計画	R5目標							
				事業実施の根拠法令等								
			事業期間	法令による事業実施の義務付け	県の裁量余地がない事業	他の評価対象事業(公共、研究等)						
			所管課(室)名			事業対象						
取組項目 i	○	1	合板・製材生産性強化対策事業費	151,733	0	26,549	地元説明会等を通じて事業者や森林所有者に事業内容の周知と事業実施の合意形成を図り、間伐材の生産及び路網整備等を一体的に実施した。また、林業事業者の生産性の向上を図るため、高性能林業機械の導入を支援した。	【活動指標】	6	6	100%	●事業の成果 ・各地方機関ごとに事業者へ事業内容の説明を行い、普及員が林業事業者とともに森林所有者に事業実施の推進を行った結果、計画以上の搬出間伐が実施できた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・搬出間伐面積を増やすことで、素材生産量の増加に寄与した。
				226,275	0	26,081			4	4	100%	
				115,919	0	26,296			4			
			森林法第193条			【成果指標】		260	204	78%		
			H28-					搬出間伐実施面積(ha)	229	314	137%	
林政課	—	—	○	森林所有者、森林組合、林業事業者	216							

取組項目 i	2	森林のめぐみ効果拡大事業費(対馬しいたけ活性化対策)	1,030	1,030	6,888	個人生産者の生しいたけを集約化し、流通に係る運搬経費の支援を実施した。また、販路開拓及びPR活動を行うため、島外での商談・催事への参加経費の支援を実施した。	【活動指標】 新規販路の開拓(累計)	3	5	166%	●事業の成果 ・春期の記録的な早期気温上昇と、秋～冬期の雨不足によりR4年次の生産量は乾換算21.3トン(R3:27.5トン)と伸びなかったものの、本事業を活用した東京・大阪・埼玉への販売促進の取組支援により販路の開拓につながった。
			1,227	550	6,944		【成果指標】 生しいたけの単価(円/kg)	1,200	1,000	83%	
		R4-6 林政課	—	—	—		市、JA、森林組合、しいたけ生産者	1,200			
取組項目 i	3	森林のめぐみ効果拡大事業費(五島ツバキ活性化対策)	771	771	6,888	農林技術開発センターが、効率的なツバキ実の収穫に向けた高木化しないための剪定・適正配置技術の研究・確立を実施した。また、椿油関連商品の販路拡大を行うため、島外の商談会、物産展への参加経費の支援を実施した。	【活動指標】 剪定研修会の実施件数(件)	4	4	100%	●事業の成果 ・R4年度の椿油生産量は、原料となるツバキ実の凶作の影響もあり、21kリットルで前年に対し77%と減少したものの、集落向けのツバキ剪定講習会を実施し、効率的なツバキ実採取に向けての技術普及が図られた。
		(R4終了)R4					【成果指標】 ツバキ実の効率的な収穫に取り組む集落数(地域数累計)	2	9	450%	
		林政課	—	—	—		市町、協議会、ツバキ林育成者、ツバキ実収穫者、商品製造業者				
取組項目 ii	○ 4	森林環境譲与税事業費(森林情報整備)	22,550	0	7,011	長崎県森林クラウドシステムに新たな森林管理システムを支援する機能の追加や既存機能の改修を行った。	【活動指標】 クラウド型森林GISの構築	1	1	100%	●事業の成果 ・クラウドシステムにおいて、森林経営機能の追加や既存機能の改修を行うことにより、関係機関の間で幅広く森林情報が共有されることになった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・クラウドに新たな森林管理システムを支援する機能を追加した結果、8市町(11地域)で集積計画が作成された。それにより、今後の森林整備につながった。
			25,329	0	6,888			1	1	100%	
			9,266	0	6,944		【成果指標】 新たな森林管理システム集積計画策定市町数(市町累計)	1	6	600%	
		R3- 林政課	—	—	—		県、市町、森林組合、林業事業者	11	8	72%	
取組項目 ii	5	スマート林業推進事業費(長崎スマート林業推進事業)	8,690	0	6,558	森林施業プランニング業務の合理化や作業の安全性を向上させることを目的とし、スマート林業技術の現場普及を推進するため、プロジェクトチームの運営、林業生産管理システムの開発、スマート技術活用人材育成、現場実証試験を実施する。	【活動指標】 スマート林業推進PT、現地実証、研修会の開催(回)	5			—
		(R5新規)R5-7					【成果指標】 林業生産性を向上させるスマート機器を実装する林業事業者数	4			
		林政課	—	—	—		県、長崎県森林組合連合会、林業事業者				

### 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	県産木材・特用林産物の生産拡大	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>対馬しいたけについて ・販路開拓、PRIに対する支援を実施した結果、新たな販路を確保することができた。また、販売促進への支援により開拓した有利な販路を維持するため、品質・量ともに安定した出荷を図る必要がある。</p> <p>五島ツバキについて ・令和4年度の椿油生産量は、原料となるツバキ実の凶作の影響もあり、21kリットルで対前年77%と減少した。より効率的なツバキ実の収穫のための剪定や優良苗木植栽等の研究・普及が必要である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>対馬しいたけについて ・販売促進について、流通を集約化し、有利な販路の開拓を進めるとともに、さらなる品質の向上を図る。</p> <p>五島ツバキについて ・農林技術開発センターが開発した剪定技術の普及拡大を図り、島内所有者のツバキ林管理技術向上と効率的なツバキ実の収穫を図る。</p>
ii	産地の維持拡大に向けた革新的技術の開発	<p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>◆森林情報整備 クラウド型森林GISに様々な機能を追加することで、施策立案や現場で利活用ができる環境が整った。一方、導入から間もないため、操作に慣れていない利用者もいる。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>◆森林情報整備 クラウドシステム利用者向け説明会を開催し、操作技術の習得に努めるとともに、運用面での課題を抽出し、その改善を図る。</p>

#### 4. 令和5年度見直し内容及び令和6年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	令和5年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和5年度の新たな取組は「R5新規」等と、見直しが無い場合は「—」と記載	令和6年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			所管課(室)名				
取組項目 i		2	森林のめぐみ効果拡大事業費(対馬しいたけ活性化対策)	—	⑤、⑥	対馬しいたけの取引価格の向上と、生産意欲の向上を図るため、流通の集約化と販路開拓の支援を引き続き実施する。また、産地の維持と栽培技術の伝承を図るため、新規参入を促し、生産を継続する取組等を支援する。	現状維持
			R4-6				
			林政課				
取組項目 ii	○	4	森林環境譲与税事業費(森林情報整備)	利用者説明会の開催やヘルプデスクを設置し、運用面での課題を抽出して改善を図り、システムを安定的に稼働させる。	②	ヘルプデスクの活用事例を利用者へ共有する等、システムのさらなる利用促進を図る。また、システムを安定的に稼働させるために、運用面の課題に対し、速やかに対応していく。	改善
			R3-				
			林政課				
取組項目 ii	○	5	スマート林業推進事業費(長崎スマート林業推進事業)	—	②	スマート林業の推進について、「長崎県スマート林業導入ロードマップ」に基づき実証試験等を計画的に実施しているが、より一層の推進を図るため、スマート林業推進プロジェクトチーム会議の開催回数を増やすなど、各地方機関や森林組合等の事業体と綿密な情報共有を図っていく。	改善
			(R5新規)R5-7				
			林政課				

注:「2. 令和4年度取組実績」に記載している事業のうち、令和4年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

#### 【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点